

## 令和7年度 第1回浦安市郷土博物館協議会議事録

1 開催日時 令和7年8月5日（火） 14時～16時

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

### 3 出席者

（委員）明保委員長、館副委員長、大村委員、吉野委員、長谷川委員  
（事務局）教育長、生涯学習部長、郷土博物館長、郷土博物館職員4名  
（傍聴人）1名

### 4 議 事

- （1）報告事項 ①令和6年度 郷土博物館事業報告  
②令和6年度 企画展「浦安の漁撈—刺網漁—」開催報告  
③令和7年度 郷土博物館事業計画
- （2）その他
- （3）視 察 夏休み企画展「もっと知りたいふるさと浦安」

### 5 会議経過

会議に先立ち、委嘱状の交付を行った。交付後、教育長、各委員があいさつを行い、事務局紹介を行った。

引き続き正・副委員長の選出を行い、委員長に明保治男氏、副委員長に館里枝氏が選出され、それぞれあいさつを行った。

### 6 協議概要

#### 報告事項①令和6年度 郷土博物館事業報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、以下のとおり。

- （委員）かつて古文書解読講座が開催された際に参加したが、古文書もまだたくさんあると思うので、学芸員が中心になって、江戸時代やもっと古い時代の資料があれば、読み解く講座を行ってほしい。
- （事務局）未整理の古文書はまだ多くある。令和7年度の計画にはないが、館のスタッフだけではなく、専門家や関係機関等の協力を仰ぎながら、今後復活させていきたい。

#### 報告事項②令和6年度 企画展「浦安の漁撈—刺網漁—」開催報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、以下のとおり。

- (委員長) 講演会に参加したが、漁村文化研究会の方の、「調査に来た時、浦安駅に降りたらあさりを煮る匂いがした」という話が印象的であった。当時の浦安は、海の砂よりあさりの稚貝の方が多いと言われていたことなど、当時の浦安の話を久々に聞くことができた。
- (委員) あさりの貝がらが道にまかれていたり、貝灰工場もあり貝と人々の生活が密着していた。浦安に来る前、故郷ではカレーには肉を入れるものであったが、浦安ではあさりをカレーに入れていた。浦安の人々と貝、特にあさは切っても切れない関係であると思っている。

### 報告事項③令和7年度 郷土博物館事業計画

配付資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、以下のとおり。

- (委員) 「ふるさと浦安作品展」が大好きで、子ども達がこんなに努力して作品を作ってくるのかといつも感動する。印西市の方と話をする機会があり、「ふるさと浦安作品展」の宣伝をした。子ども達は、作品展を通して浦安が自分のふるさとになっていく感覚を覚えているのではないかと。流入人口の多い印西市や流山市でも同様の効果があると思うので、教育委員会と連携して、浦安の取り組みを市外に発信していくこともできるのではないかと。
- (事務局) 夏休みをかけて調べた経験は、将来浦安の外に出たとしても良い影響になるのではと思う。博学連携担当も、子ども達や教員に周知するために様々なアプローチを行っている。作品を見て、またご意見をいただきたい。
- (委員) スペシャルジュニア学芸員講座について、令和6年度はお洒落やベカ舟講座を開催しているが、7年度はどんなものがあるのか。また、講座の内容は子どもたちの意見や希望を取り入れているのか。
- (事務局) 7年度はお洒落とベカ舟講座に加え、好きな浦安の写真を選び、解説文を作る展示講座を行い、冬季企画展「浦安の海苔養殖」内で展示する予定である。現在は、何ができるか、どの分野でボランティアを育成したいかを検討し内容を決定している。今後はジュニア学芸員から提案があれば新たな講座も開講し、それぞれの得意分野を活かして参加してもらえたら良い。
- (委員) ジュニア学芸員がお洒落講座を経て正式に入会したと聞いた。伝統芸能を受け継いでいくうえでも大切だと思うので、引き続き行ってほしい。
- (委員) 企画展「浦安の大衆芸能」については、浦安亭を想定しているのか。お囃子も入っているのか。
- (事務局) お洒落とお囃子は、伝統芸能として文化財指定し調査も進んでいる。その他の大衆芸能については、6年度に浦安亭の関係者への聞き取り調査等を行い、その結果を踏まえ、さらなる情報や資料収集を進めていきたいと考えている。今回はかつて浦安の人々が普段親しんできた大衆芸能について紹介するため、開催時期を含めて計画途中である。
- (委員) リニューアル前には浦安亭の展示があったが、それがなくなって寂しいという話も聞いているため、ぜひお話を聞けたらと思う。
- (委員) テレビで漫才師が「浦安でうければ本物」と言っていた。浦安のお母さんが貝を剥きながら漫才を聞いていて、面白くなかったら貝殻を投げてる

- といい、お母さん方を振り向かせ、笑ってもらうのが大変だったと聞いた。
- (委員) 浦安亭に来たことがない若い世代の噺家の方が、「浦安でうければ一人前と師匠から聞いている」と話しており、噺家の方にとってはそれだけ浦安が修練場であったのだと思う。実際に当時を知る方の話を聞いてみたい。
- (事務局) 浦安亭の写真や、幟等、浦安亭の運営に直接関係する実物資料がまだ見つかっていない。今後も調査するが、手掛かりがあれば教えていただきたい。
- (委員) 新任委員として初めて会議資料を見たが、こんなにたくさんの事業を行っているのかと驚いた。学芸員はじめ館のスタッフに相当な負荷がかかることも多いと思うので、将来的には取捨選択も視野に入れてはどうかと思った。
- (事務局) 当館は体験型の博物館ということで多くの体験事業を行っているが、コロナ禍を経て運営体制も変わり難しくなっている部分もあるため、事業の取捨選択や、オンラインを活用するなどやり方を工夫しながら行っているところである。博学連携事業も様々な活動を行っており、今後は学芸員の専門性もさらに伸ばして運営を行っていきたい。

## (2)その他

配付資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、以下のとおり。

- (委員) かねてより浦安はとにかく史料がないと聞いてきており、現在の浦安についての史料を残す努力も必要であると思っている。博物館は子育て世代の居場所の選択肢の一つにもなっており、運営やイベント、研究と大変だとは思いますが、その努力が市民に浸透してきていると思うので、これからも頑張ってもらいたい。
- (委員) オーラルヒストリー（口述で記録された歴史）は大切だが、聞き取り調査は聞きっぱなしになってしまいがちであり、その記録を伝えていくのが難しいため、何らかの形に残る活動として進めていってほしい。また、他者の力を借りることも大切であり、例えば中学校、高校などで自分たちのまちを知る自発的な活動をしてもらって、それを博物館でサポートしてあげるような事があればよい。
- (事務局) 次世代のボランティア育成や、先人たちが聞き取りをしたり残してくれたものを活かしながら、これからも市民のために色々なものを残せるように運営していきたい。

以上をもって、令和7年度第1回浦安市郷土博物館協議会は閉会した。  
会議後、企画展「もっと知りたいふるさと浦安」の視察を行った。